

平成29年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2019

甲州市教育委員会

平成29年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2019

甲州市教育委員会

序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成29年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。29年度は3地点の遺跡について試掘調査を行っており、そのうち1ヶ所は史跡勝沼氏館跡の指定地内の調査になります。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成31年3月29日

甲州市教育委員会

教育長 保坂 一仁

例　言

- 1 本書は、平成 29 年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

凡　例

- 1 本書中、各遺跡の調査地点を示した図（4 ページ）は国土地理院発行の 1/50,000 地形図（御岳昇仙峡、丹波、都留）を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示した。方位の無いものは真上北である。出土遺物は全て 1/3 としている。
- 3 遺構平面図・断面図中のトーンは石、土器のトーンは煤の付着を示す。

目　次

序

例言・凡例・目次

| | |
|---------------------|----|
| 第 1 章 遺跡の所在確認業務について | 1 |
| 第 2 章 発掘調査等について | 1 |
| 第 3 章 発掘調査等の概要 | 2 |
| 第 1 節 事業費 | 2 |
| 1 事業経費収支予算書 | 2 |
| 2 事業経費収支精算書 | 3 |
| 第 2 節 発掘調査等 | 5 |
| 1 東田遺跡 | 5 |
| 2 旗板 1810-4 他 | 13 |
| 3 勝沼氏館跡 | 17 |

抄録・奥付

第1章 遺跡の所在確認業務について

平成29年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

| | | | |
|------|-------------------|-------|-----------------|
| 保坂一仁 | 甲州市教育委員会教育長 | | |
| 飯島 泉 | 教育委員会文化財課長 | | |
| 小野正文 | 文化財課文化財指導監 | | |
| 小倉 真 | 文化財課歴史まちづくり担当リーダー | 雨宮晃一 | 文化財課文化財保護担当リーダー |
| 岩間大介 | 文化財課歴史まちづくり担当 | 入江俊行 | 文化財課文化財保護担当 |
| 齊藤陽介 | 文化財課歴史まちづくり担当 | 廣瀬昭久 | 文化財課文化財保護担当 |
| 萩原麻由 | 文化財課歴史まちづくり担当 | 柳通めぐみ | 文化財課文化財保護担当 |

開発計画に伴う遺跡の所在確認と不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、29年度は277件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの256件、不動産鑑定に伴うもの21件であった。

第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で工事立会いとし、2件については試掘調査を実施した。また、史跡勝沼氏館跡指定地内において遺構の分布状況を確認するための調査を実施した。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 入江

発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・荏原由美子・栗原礼子・島忠幸・萩原里江子・正木なつ子・
三井喜久男・望月美香・吉原智美

第3章 発掘調査等の概要

第1節 事業費

1 事業経費収支予算書

収入の部

| | 金額 | 備考 |
|--------|------------|---------------|
| 国庫補助金 | 1,439,000円 | 2,878千円の50% |
| 県費補助金 | 534,000円 | 2,878千円の25%以内 |
| 甲州市負担金 | 905,000円 | |
| 計 | 2,878,000円 | |

支出の部

| | 金額 | 備考 |
|----------|------------|--------------------------------|
| 報償費 | 0円 | |
| 旅費 | 0円 | |
| 賃金 | 1,790,000円 | 発掘170日×7,000円、整理100日×6,000円 |
| 需要費 | 440,000円 | |
| 消耗品費 | 60,000円 | 調査・整理消耗品 |
| 印刷製本費 | 380,000円 | 報告書1,150円×300冊×1.08、他写真・資料コピー等 |
| 役務費 | 0円 | |
| 委託料 | 0円 | |
| 使用料及び賃借料 | 648,000円 | 機械借上げ32,400円×20日 |
| 計 | 2,878,000円 | |

2 事業経費収支精算書

収入の部

(上段：精算額 下段：予算額)

| | 金額 | 備考 |
|--------|------------|---------------|
| 国庫補助金 | 1,439,000円 | 2,106千円の50% |
| | 1,439,000円 | |
| 県費補助金 | 534,000円 | 2,106千円の25%以内 |
| | 534,000円 | |
| 甲州市負担金 | 1,137,586円 | |
| | 905,000円 | |
| 計 | 3,110,586円 | |
| | 2,878,000円 | |

支出の部

(上段：精算額 下段：予算額)

| | 金額 | 備考 |
|----------|------------|----------------------------------|
| 報償費 | 0円 | |
| | 0円 | |
| 旅費 | 0円 | |
| | 0円 | |
| 賃金 | 1,939,500円 | 発掘 217.5日×7,000円、整理 6.5日×6,000円 |
| | 1,790,000円 | |
| 需要費 | 313,566円 | |
| | 440,000円 | |
| 消耗品費 | 119,166円 | 鋤簾、ブルーシート、土のう袋、ビニール袋等 |
| | 60,000円 | |
| 印刷製本費 | 194,400円 | 平成28年度市内遺跡発掘調査等事業報告書 |
| | 380,000円 | |
| 役務費 | 0円 | |
| | 0円 | |
| 委託料 | 0円 | |
| | 0円 | |
| 使用料及び賃借料 | 857,520円 | 重機借上げ 648,000円、プレハブ・トイレ 209,520円 |
| | 648,000円 | |
| 計 | 3,110,586円 | |
| | 2,878,000円 | |



平成29年度市内遺跡発掘調査地点

第2節 発掘調査等

1 東田遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山西広門田字東田 89-1,90
- (2) 調査面積 約 63m²
- (3) 調査期間 平成 29 年 10 月 26 日～10 月 31 日
- (4) 調査原因 店舗建設
- (5) 調査結果

調査地点は塩山西広門田地内に位置し、塩川右岸の微高地上に立地する。当地は埋蔵文化財包蔵地である「東田遺跡」に含まれており、店舗建設が予定されていることから、当該地内における遺跡の有無を確認するための試掘調査を実施することとなった。

開発対象地区内に 4 か所の試掘坑（以下 A～D トレンチ）を設定した。

A トレンチは敷地内の北東側に 13.3 × 1.3m で東西方向に設定した。検出された遺構の性格を確認するため、部分的に 4.8 × 1.9m の範囲を拡張した。地表から深さ 80～90cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる黄褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行った。その結果、遺構は溝 1（1 号溝）、ピット（小穴）1 を検出し、遺物は古墳時代の土師器破片が出土した。土師器は溝遺構と考えられる一帯から特に集中的に出土している。溝遺構の広がりを確認するため、トレンチの南側の一部を拡張したところ、A トレンチ内で長さ 4m、幅約 1.5m を測り、北東から南東方向に走っていることが分かった。溝の深さは約 50cm で、断面は舟底形を呈する。

B トレンチは敷地内の北東側に 13.4 × 1.2m で東西方向に設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行った。その結果、溝 1（2 号溝）、ピット 1 を検出し、遺物は古墳時代の土師器片が出土した。溝の深さは約 60cm で、A トレンチで確認された溝と同一の溝と推定される。溝内から古墳時代の土師器片が出土していることも A トレンチの溝と共通する。

C トレンチは敷地内の南西側に 11.3 × 1.2m で東西方向に設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行った。その結果、遺構と判断される落ち込みを 4 基検出した。遺構の上面からは古墳時代の土師器片が出土している。

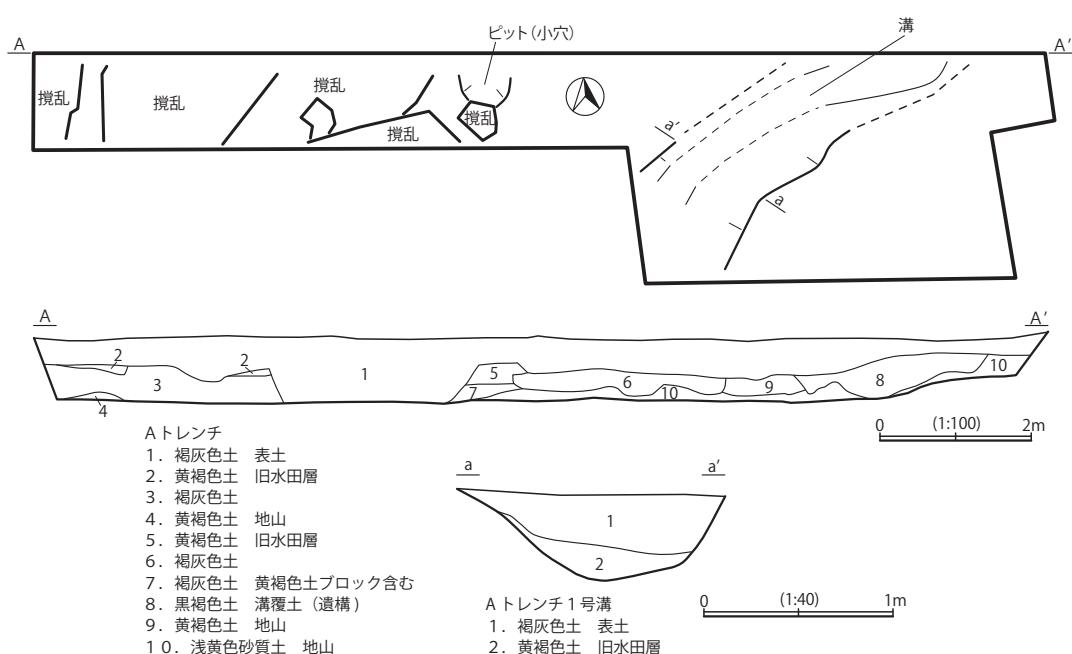
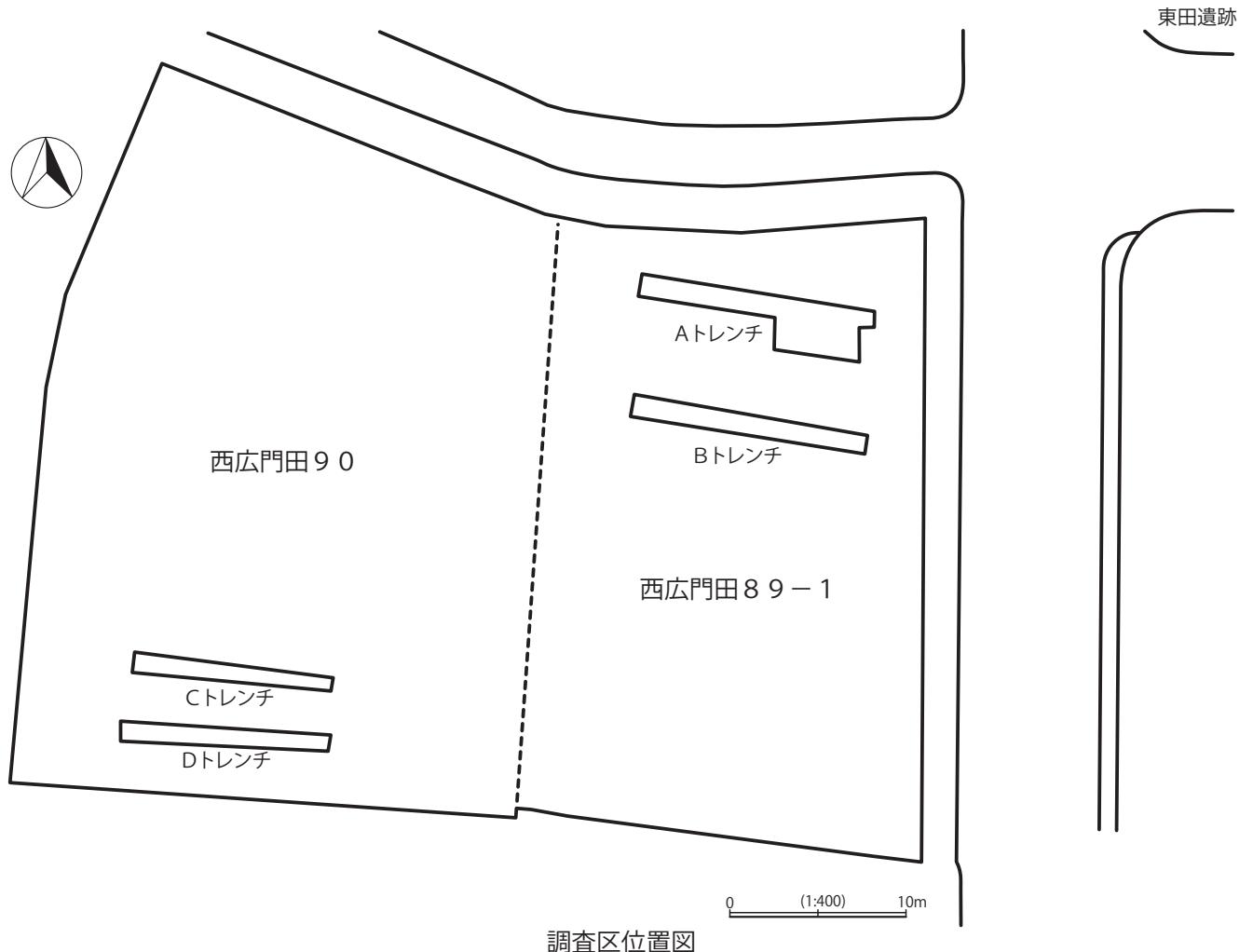
D トレンチは敷地内の南西側に 12 × 1.2m で東西方向に設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行った。その結果、遺構と判断される落ち込みを 2 基検出した。C トレンチと同様に遺構上面から古墳時代の土師器片が出土している。

(3) まとめ

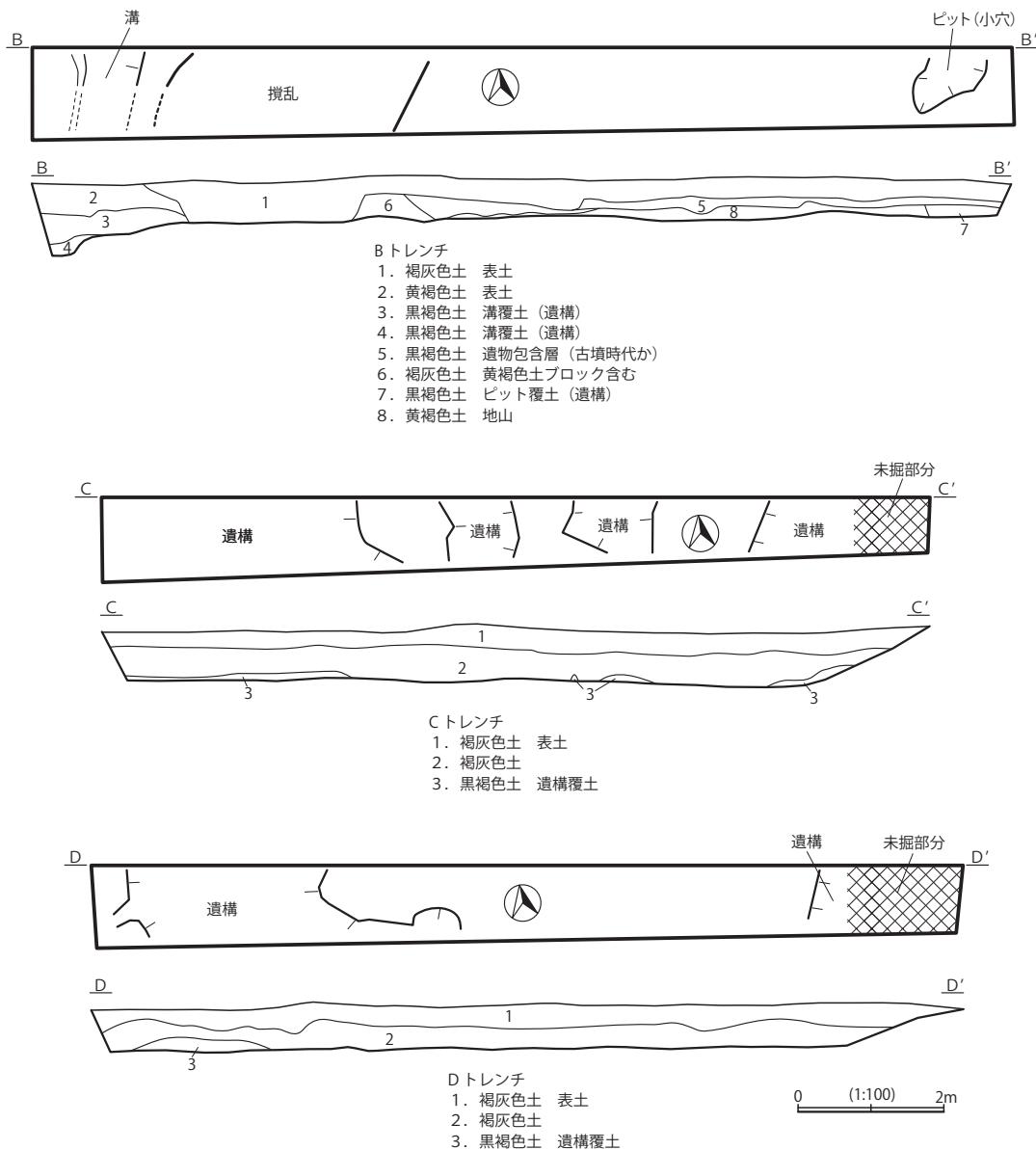
調査の結果、A～D のトレンチから遺構・遺物が発見された。遺物は古墳時代前期の土師器片が主体を占

める。このことから遺構の時期についても、古墳時代前期のものと推定される。当地は古墳時代前期の集落と墓域が発見された西田遺跡の南側に位置しており、おそらくは同遺跡の領域に含まれるものと推定される。

出土遺物は 10 点図示した。1 から 6 は土師器で A トレンチ出土。1・2 は壺で同一個体と考えられる。3 は甕、4 は甌底部、5・6 は台付甕の脚部。7 から 10 は土師器で B トレンチ出土。7 は壺口縁部破片、8 は S 字状口縁台付甕の口縁から胴部にかけての破片で、ナナメハケ後、横ハケを施す。9 は高环脚部破片、10 は台付甕の脚部。

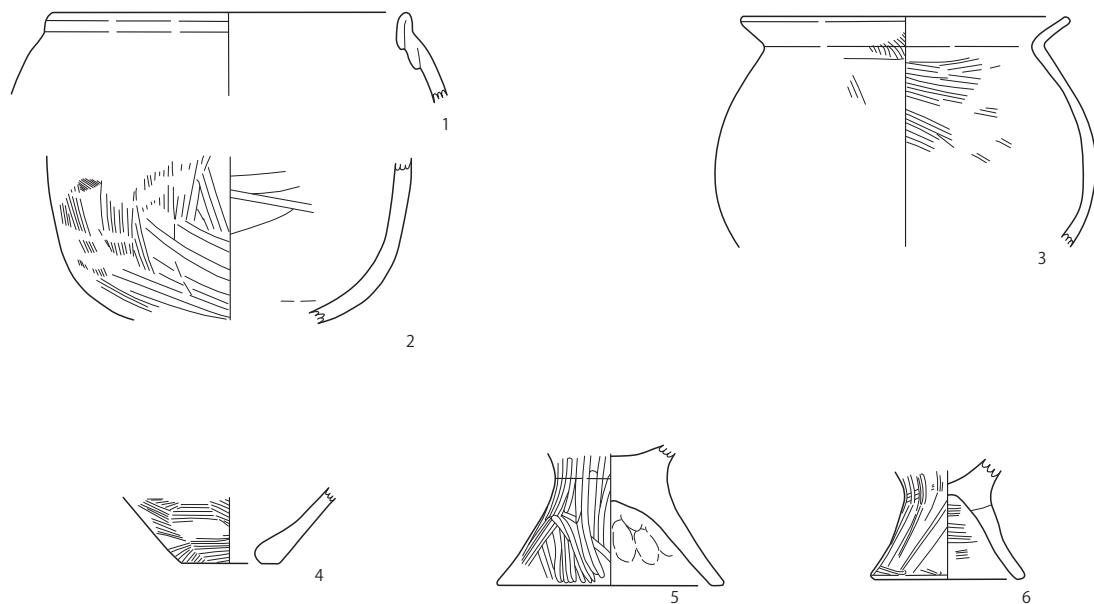


A レンチ断面図

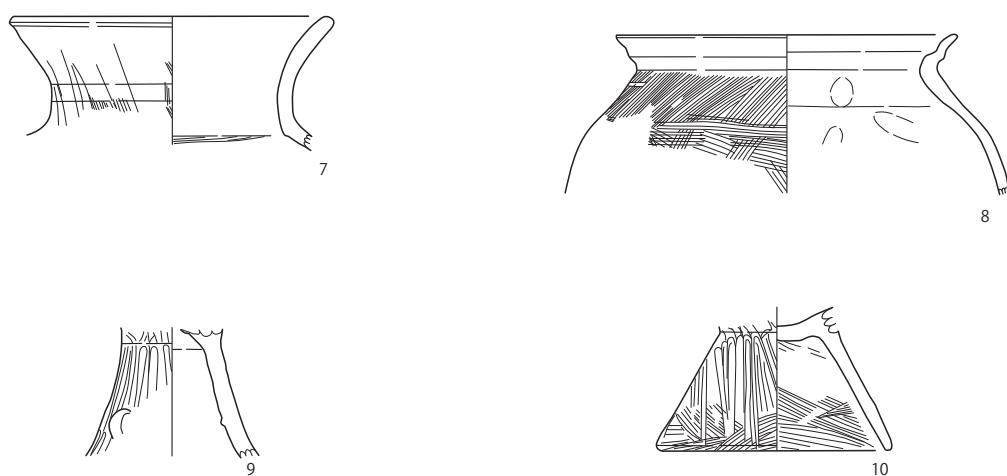


B・C・D トレンチ平面図

A トレンチ



B トレンチ



0 (1:3) 10cm

出土遺物

東田遺跡



A テンチ土層断面（南東から）



A テンチ溝検出状況（南西から）



A テンチ溝断面（北東から）



A テンチ溝下層遺物出土状況



B テンチ土層断面（南東から）



B テンチ遺構検出状況（西から）



B テンチ溝内遺物検出状況



C テンチ土層断面（南西から）



C テンチ遺構検出状況（西から）



D テンチ土層断面（南西から）



D テンチ遺構検出状況（南西から）



2 旗板 1810-4 他

- (1) 所在地 甲州市塩山上於曾字旗板 1810-4 他
- (2) 調査面積 約 28.5m²
- (3) 調査期間 平成 29 年 12 月 4 日～12 月 13 日
- (4) 調査原因 宿泊施設建設
- (5) 調査結果

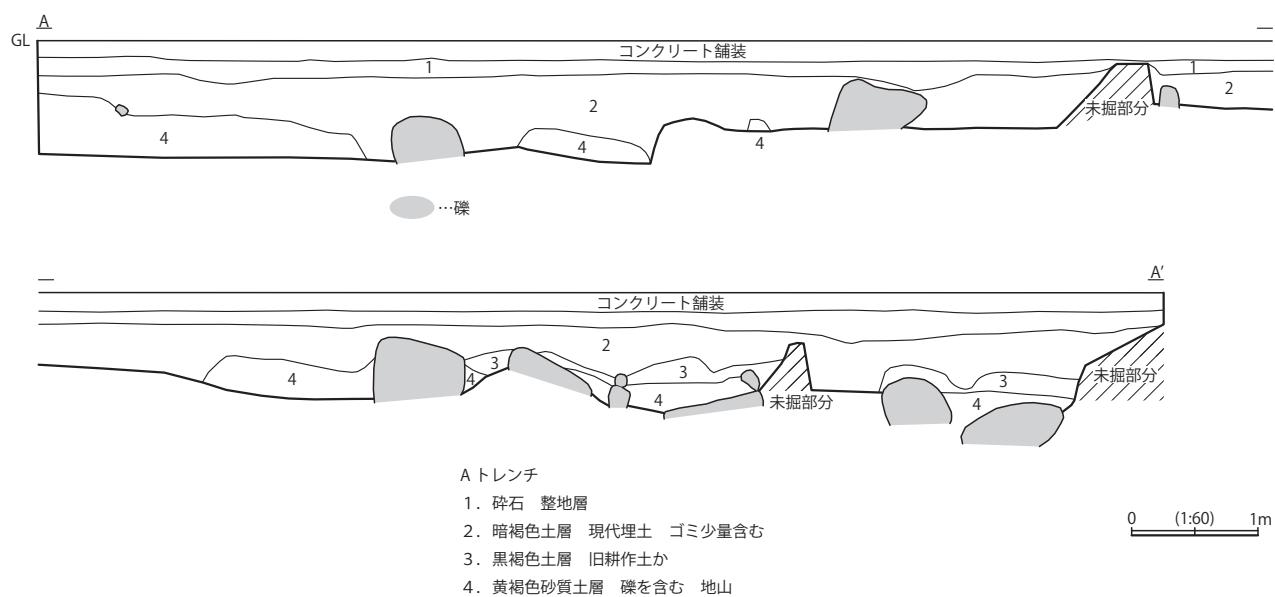
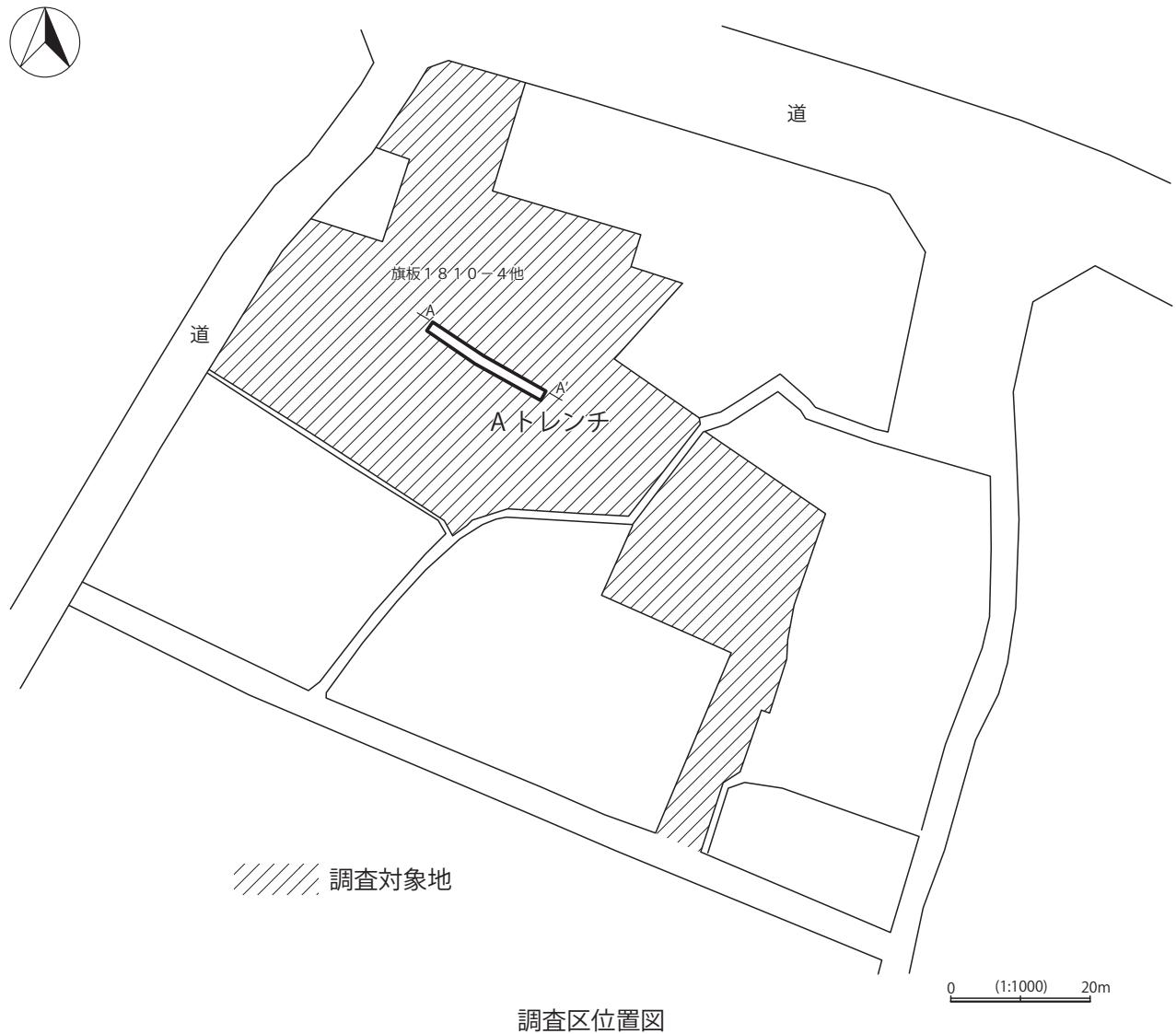
調査地点は塩山駅から南西 100 m の距離に位置する。当地は埋蔵文化財包蔵地に含まれていないが、南側には県の史跡「於曾屋敷」が近い距離にある。当地は以前、大型の店舗が建てられていたが、その後建物を解体して、現在は駐車場として利用されている。このたび宿泊施設の建設が予定されたことから、遺跡の有無や残存状況を確認するための試掘調査を実施することとなった。

開発対象地区内に 1 か所の試掘坑（A ドレンチ）を設定した。

A ドレンチは敷地内の北東側に 19.0 × 1.5m で東西方向に設定し、カッターで表面のコンクリートを除去し、表土掘削を行った。地表面から深さ 60 ～ 90cm まで掘り下げ、基盤層（地山）と考えられる大型礫を含む黄褐色砂質土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行ったが、遺構は検出されなかった。コンクリート（厚さ 15cm）の下、1 層は碎石層で厚さ 10cm、2 層は暗褐色土層で現代の埋土で厚さに幅はあるが、30 ～ 60cm の厚さで堆積している。コンクリート基礎も確認される。3 層は黒褐色土層で部分的に 10 ～ 15cm 程度残存しており、旧耕作土と考えられるが、時期は不明。4 層は黄褐色砂質土層で礫を含み、基盤層（地山）と考えられる。また、遺物は検出されなかった。

調査の結果、当地は著しい削平を受けていたことが確認された。削平した面に建物の基礎が入っていることから、以前に存在した大型店舗建設時のものと考えられる。土層堆積から古い地層がほとんど確認できず、地山面もある程度削られていることが観察された。

調査区内から遺構・遺物が確認できなかったこと、また大規模な削平がすでに行われていることから、当地内には、遺跡は存在または残存していないものと推定される。



A トレンチ土層断面図



A トレンチ遺構確認状況（西から）



A トレンチ遺構確認状況（東から）

旗板 1810-4 他



A トレンチ土層断面（南西から）



A トレンチ東半土層断面（南西から）

3 勝沼氏館跡

(1) 所在地 甲州市勝沼町勝沼 2517-2,2472-4,2472-1,2457-3,2457-4,2457-1,2455,2439,
2458-1,2458-2

(2) 調査面積 約 529.5m²

(3) 調査期間 平成 29 年 12 月 11 日～平成 30 年 3 月 30 日

(4) 調査原因 史跡整備

(5) 調査結果

調査の目的と方法

今回の調査対象は勝沼氏館跡東郭の一部と郭外である。この一帯は今後整備が予定されているため、必要な情報を獲得するため遺構確認調査を実施する。

過去の調査では、昭和 52 年、史跡指定に先駆けて「外郭部及び周辺地域の遺構確認調査」が実施されており、この時の調査によれば、東郭からは三段の石積遺構や土塁跡が検出されている。また、郭外の範囲からは遺構は確認されず、土師質土器のみが検出されたという（山梨県教育委員会ほか『勝沼氏館跡調査概報 III』1978 年）。隣接する G・F 区（ワインセンター進入路北側）は平成 4 年～16 年にかけて発掘調査が行われており、南北土塁を境として、西側に東郭内の遺構群（工房跡と推定）、東側に家臣屋敷地と推定されるような建物群が検出されている。

このような調査成果も踏まえ、今回の調査対象部分では以下のような課題を解明することが調査の目的となる。

①南北土塁およびこれに付随する堀、土塁脇側溝の延長部分を確認する。土塁や堀の位置が明らかになるとにより、館の東側における境界がより明確となる。

②南北土塁西側に相当する、東郭内の遺構群を確認する。郭内の遺構として、掘立柱建物跡や水路跡などの存在が想定される。

③南北土塁東側に相当する、郭外の遺構群（家臣屋敷地と推定）を確認する。家臣屋敷に関連するものとして、掘立柱建物跡や井戸等の存在が想定される。

今回の調査対象区一帯に展開する遺構群の分布状況等を明らかにすることにより、今後の調査や整備を実施するために必要な情報を獲得する。

対象地内にトレーナーを 20 本程度設定し、遺構確認を行う。原則として遺構の掘削は実施しないが、実施する場合には最小限度に止めるものとする。遺構確認後は、写真（空撮・個別）・図面（測量・個別）等で記録した後、埋め戻しを行う。

調査の成果

対象地内に A～M トレーナーまで大小 21 か所のトレーナーを設定した。

①A・B・C トレーナー（勝沼 2517-2、2472-4）

A トレーナーは東西方向に長さ 14.3m、幅 1.4m で設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところで、

地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構 2 本、石列遺構 1 基、ピット 8 基を検出した。東端から検出された溝状遺構はトレントの外まで延びるため規模は不明だが、幅 3m 以上とみられる。溝状遺構からは礫が多く検出されており、一部石列とみられるものもあった。この石列の可能性を検討するため、南側に拡張トレント（a トレント）を設定して調査したところ、延長線上にも石列が並んでいることが分かり、これらの礫も遺構を構成する要素であることが判明した。溝状遺構と重複した別遺構と考えられる。遺物は陶器（天目、古瀬戸、常滑）、磁器（近世～近代）、土器（摩耗、甕、土師質土器）、鉄製品（現代の番線）、ガラス製品（薬瓶）の破片が出土している。

B トレントは東西方向に長さ 16.5m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 50cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構 2 本、ピット 2 基を検出した。また、東半は大規模な搅乱により破壊されていた。遺物は陶器（注口、碗）、磁器（現代）、土器（摩耗、擂鉢、縄文）、鉄製品（鉄鏃？）、ガラス製品（薬瓶）、石器（打製石斧）の破片が出土している。

C トレントは東西方向に長さ 15.3m、幅 2.4m で設定した。地表から深さ 50～70cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構 4 本を検出した。また東半は谷状地形となっており、東方へ緩やかに落ち込み、トレント端では地表下 1.4m で地山面が検出された。遺物は陶器（常滑）、磁器（近現代）、土器（摩耗、壺、甕、土師質土器、縄文）、銅製品（透孔のある銅板）、ガラス（小片）、石器（打製石斧）が出土している。

なお、A～C トレントで検出されている溝状遺構はいずれも南北溝で、各トレント西端で検出されている溝は、位置関係から、同一の溝（南北溝）と考えられる。

②D 1・E 1・F 1 トレント（勝沼 2472-1）

D 1 トレントは東西方向に長さ 14.9m、幅 2m で設定した。地表から深さ 90cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構 1 本、土坑 2 基、ピット 3 基、不整形遺構 1 基を検出した。土坑のうち一つは、焼土粒、炭化物粒を多く含むもので、火に関連する遺構と考えられる。廃棄土坑の類かもしれない。もうひとつは隅丸方形の一部にも見え、トレント外に延びるもの 5m 程度の幅を持つことから、竪穴建物の一部の可能性がある。不整形遺構はピット 2 基とも重複しており、平面形がはっきりしない。ピットや溝状遺構の類かもしれない。遺物は陶器（縁折皿、常滑）、磁器（青磁口縁、近現代の染付）、土器（縄文、土師器、土師質土器、置きカマド脚部）、ガラス（小片）、石器（黒曜石・水晶破片、打製石斧）が出土している。

E 1 トレントは東西方向に長さ 16.3m、幅 2.1m で設定した。地表から深さ 80～90cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構 1 本、ピット 1 基、石列 1 基を検出した。また、土壘の痕跡をトレント土層から確認している。検出された土壘の幅は石列から巨礫の間で、約 8m を測り、この間の土層堆積状況を見ると、1 層あたり 5cm～10cm の層厚で、黄褐色土、黒褐色土が互層堆積となっていた。なお、土壘の基底部は遺構確認面上では黒褐色土となっており、土壘の一部なのか別遺構なのか判然としない。土壘は基底幅 8m の南北土壘であったと想定されるが、北側

のD 1、南側のF 1 トレンチからは同様な土墨痕跡は発見されておらず、E 1 トレンチ地点付近のみ部分的に残存したものとみられる。遺物は陶器（常滑？）、磁器（近現代）、土器（摩耗、縄文、土師器、土師質土器、土管）、ガラス（小片）、石器（打製石斧、黒曜石・水晶小片）が出土している。

F 1 トレンチは東西方向に長さ 17.6m、幅 1.9m で設定した。地表から深さ 50～60cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構 1 本、ピット 4 基を検出した。トレンチ西半は谷状地形となっており、西端では地表下 2.1m まで落ち込んでいる。西側に位置するC トレンチでも東半は谷状地形となっており、F 1 トレンチと C トレンチとの間は谷状の旧地形であったことが判明した。また、F 1 トレンチの谷内から石列が確認されている。土留めまたは区画の機能を持つものと考えられるが部分的な検出であり、性格は判然としない。遺物は磁器（近現代の碗）、土器（縄文、土師器坏、土師質土器）、石器（水晶小片）が出土している。

③D 2・E 2・F 2・G・H トレンチ（勝沼 2457-1,-3,-4）

D 2 トレンチは東西方向に長さ 20.2m、幅 2m で設定した。トレンチの中央部は生きた畠灌の管が入っており、破損を避けるため未調査とした。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところで、遺構確認を行った。これまで遺構検出をおこなっていた黄褐色砂質土層は部分的に確認されるのみで、その下層の黒褐色土層がトレンチ全面から検出されたため、この上面を遺構確認面とした。なお、この黒褐色土層中からは縄文土器片が検出されており、縄文包含層として中世の地山面を形成していたと考えられる。

遺構検出の結果、石組遺構 1 基とピット 7 基を検出した。石組遺構は全体の平面形は不明だが、3 列確認できる。列の間隔は 20～30cm で、いずれもわずかに弧状を呈しており、溝跡と推定される。ピットは直径 20～40cm で円形、不整円形で構成される。トレンチ内の配置に規則性は見出せないが、まとまって検出されており、建物遺構等の一部の可能性もある。遺物は陶器（碗小片）、磁器（近世）、土器（摩耗、縄文、土師器、土師質土器などの破片）、石器（黒曜石・水晶・チャート小片）が出土している。

E 2 トレンチは東西方向に長さ 18m、幅 2m で設定した。地表から深さ 60～80cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。石組遺構 1 基、ピット 5 基を検出した。石組遺構は南北方向に 2 列確認できる。東側の石列の方が大型の石を用いており、西側に対して面が揃っている。西側の石列は小型の石を用い、面が揃っておらず、東側石列の天端に対して一段低くなり、段差が存在する。こうしたことから、敷地の境界・区画を意図した溝状遺構と考えられる。トレンチ西端は谷状に落ち込んでいる。同様の落ち込みは南側に設定した F 2 トレンチからも検出されており、同じ遺構（溝）または同じ地形（谷）と考えられる。遺物は陶器（碗小片）、磁器（碗小片）、土器（摩耗、縄文、土師器などの小片）、石器（水晶小片、凹石？）が出土している。

F 2 トレンチは東西方向に長さ 16.9m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 40～60cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。南北方向に走る溝状遺構を 2 本検出した。トレンチ西端は E 2 トレンチ同様、谷状に落ち込んでいる。遺物は陶器（小片）、磁器（小片）、土器（摩耗、土師器、土師質土器小片）、石器（打製石斧、黒曜石小片）が出土している。

Gトレーニチは南北方向に長さ 13.8m、幅 2m で設定した。地表から深さ 30～50cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。不明土坑 1 基、ピット 3 基を検出した。不明土坑は調査区外に延び、平面形態がはっきりしない。拳大程度の礫が含まれ、落ち込みの可能性もある。遺物は陶器（碗小片）、磁器（碗小片）、土器（摩耗、縄文、土師器、土師質土器）、石器（黒曜石小片）が出土している。

Hトレーニチは南北方向に長さ 17.1m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 40～60cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色砂質土層をトレーニチの北端から検出したが、トレーニチの中央部から南端にかけては砂礫層となり、遺構は検出されなかった。砂礫層は花崗岩が風化したもので、河川など水の影響を受けて形成されたものではないと考えられる。Hトレーニチの南側に 2m 四方のサブトレーニチ (h) を設定して調査したが、地表下 20cm で拳大～人頭大の礫（花崗岩）が検出され、遺構は検出されなかった。Hトレーニチと同様な堆積状況が広がっているものと考えられる。遺物は陶器（小片）、石器（水晶小片）が出土している。

④ I・Jトレーニチ（勝沼 2455）

Iトレーニチは南北方向に長さ 6.7m、幅 2m で設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたが、ここでも Hトレーニチと同様の砂礫層が広がっており、遺構は検出されなかった。なおトレーニチ南半は近代の搅乱を受けて地表下 1.5m まで破壊されていた。遺物は出土しなかった。

Jトレーニチは東西方向に長さ 16.7m、幅 2.1m で設定した。地表から深さ 50～70cm まで掘り下げたが、H・Iトレーニチと同様の砂礫層が広がっており、遺構は検出されなかった。近代の搅乱を 2か所確認した。遺物は出土しなかった。

Hトレーニチから東の I・J トレーニチにかけては、風化花崗岩を主体とした砂礫層が広がっており、遺構を確認することが出来なかった。未調査部分に遺構が存在する可能性はあるものの、遺構の分布状況は G トレーニチ以西と比べて薄いと言わざるを得ず、この一帯で館に関連するような土地利用が行われていたかどうかは疑問である。

⑤ K1・K2・L1・L2トレーニチ（勝沼 2458-1,-2）

K1 トレーニチは南北方向に長さ 17.3m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 80cm まで掘り下げたところで、しまりの強い黒褐色土を検出したため、一旦この面で遺構検出を行うこととしたが、遺構は検出されなかった。さらに下層の土層堆積状況を調べるために、この黒褐色土を掘り下げたところ、この土層中から摩耗した縄文土器片が検出された。D2 トレーニチで確認された縄文包含層と同様の土層と判断される。この層は拳大～人頭大、また直径 1 m 以上の巨礫を含んでおり、地形上も周囲から 1 段低い地点であることから、多くは流れ込みによるものと考えられる。地表下 1～1.3m で暗茶褐色土層に変わり、これが本来の地山と考えられるが、ここでも遺構は確認できなかった。遺物は土器（摩耗、縄文、土師器小片）、石器（石鏃、打製石斧、黒曜石・水晶小片、チャート小片）が出土している。

K 2 トレンチは南北方向に長さ 14.2m、幅 1.9m で設定した。地表から深さ 60cm まで掘り下げたところで、しまりの強い黒褐色土を検出したため、この面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は陶器（小片）、磁器（青磁碗、染付小片）、土器（摩耗、縄文？、土師器、土師質土器小片）、石器（黒曜石・水晶・チャート小片）が出土している。

L 1 トレンチは東西方向に長さ 12.5m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 1 ~ 1.1m まで掘り下げたところで、しまりの強い黒褐色土を検出したため、この面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は磁器（碗小片）、土器（摩耗、縄文、鉢、高台付壺破片）、石器（黒曜石小片）が出土している。

L 2 トレンチは東西方向に長さ 14.4m、幅 2m で設定した。地表から深さ 60 ~ 70cm まで掘り下げたところで、しまりの強い黒褐色土を検出したため、この面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は磁器（染付小片）、土器（摩耗、縄文？、土師器、土師質土器小片）、石器（石鏃小片、黒曜石・水晶小片）が出土している。

K 1・2、L 1・2 トレンチのある地点は、いずれも縄文包含層と考えられる黒褐色土が堆積しており、他の地点と土層堆積状況が異なっている。この地点は周囲から遺構は検出されなかったが、K 1・2 トレンチ、L 2 トレンチから黄褐色土が薄く水平に堆積した状態で検出されており、時期は不明であるが水田の痕跡と考えられる。

⑥M 1・M 2 トレンチ（勝沼 2439）

M 1 トレンチは東西方向に長さ 9.6m、幅 1.9m で設定した。地表から深さ 70cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる暗黄褐色土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構 2 本、ピット 5 基を検出した。溝状遺構はいずれも南北溝で、幅は 10cm、20cm と、それぞれ小規模なものである。ピットは重複していびつな不整形となっているが、ここではまとめて 1 基と数えた。トレンチの東端付近から拳大の礫が顕著にみられ、直線的に 1 列に並ぶようにみえる部分もあるが、遺構なのか判然としない。遺物は陶器（甕、天目茶碗破片）、磁器（白磁・染付破片）、土器（縄文、土師器、土師質土器、茶釜小片）、石器（水晶小片）が出土している。

M 2 トレンチは東西方向に長さ 17.2m、幅 1.8m で設定した。地表から深さ 30 ~ 40cm まで掘り下げたところで、地山と考えられる黄褐色土層を検出したため、この面で遺構検出を行った。溝状遺構 1 本、ピット 10 基を検出した。溝状遺構は南北溝で、幅 1.5m を測る。ピットは東西方向に 4 基、3.6m 幅で等間隔に並ぶものがあり、建物等の遺構の一部とみられるものがある。遺物は陶器（碗・皿小片）、磁器（染付小片）、土器（摩耗、土師器、土師質土器、瓦質土器小片）ガラス（小片・現代）、石器（水晶小片）が出土している。

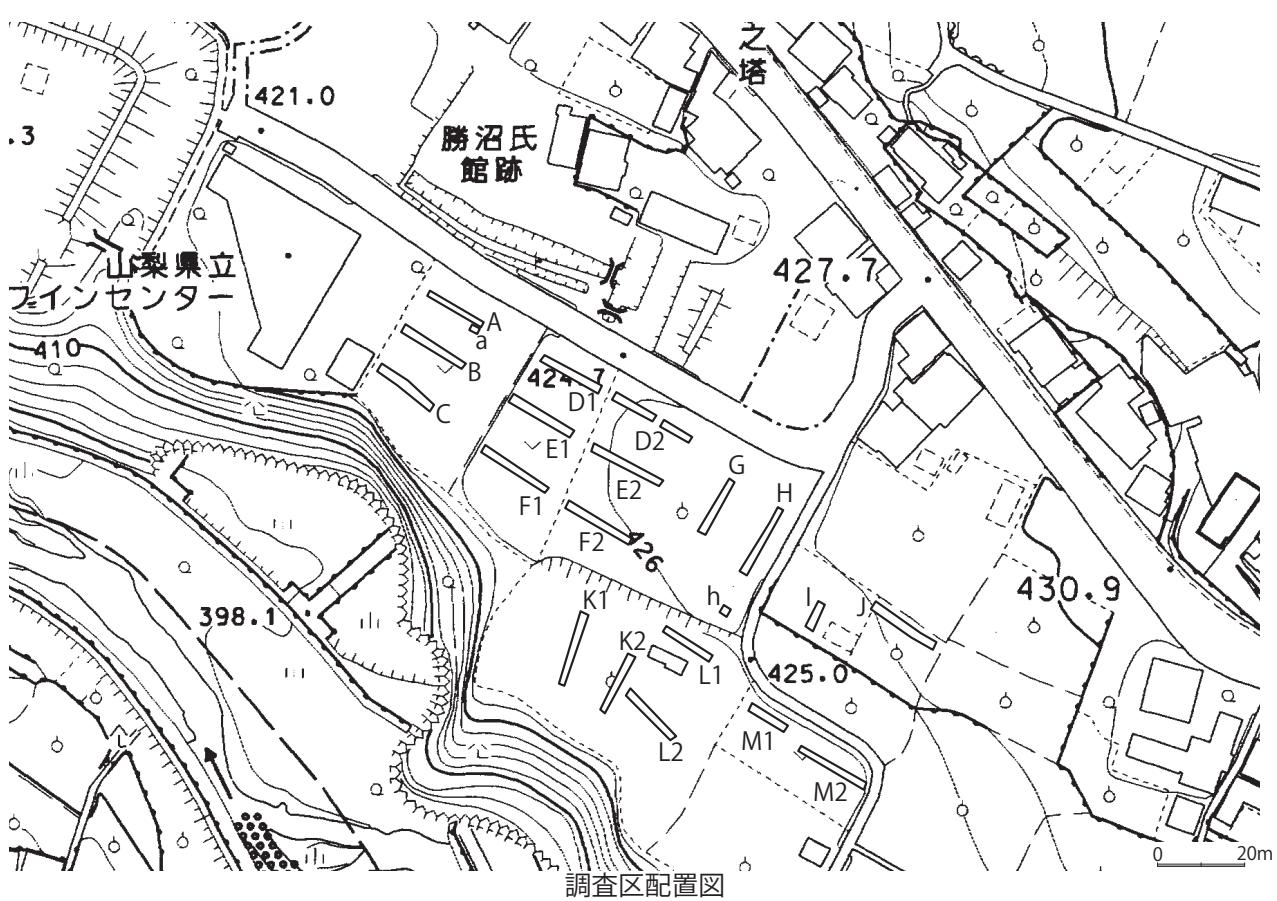
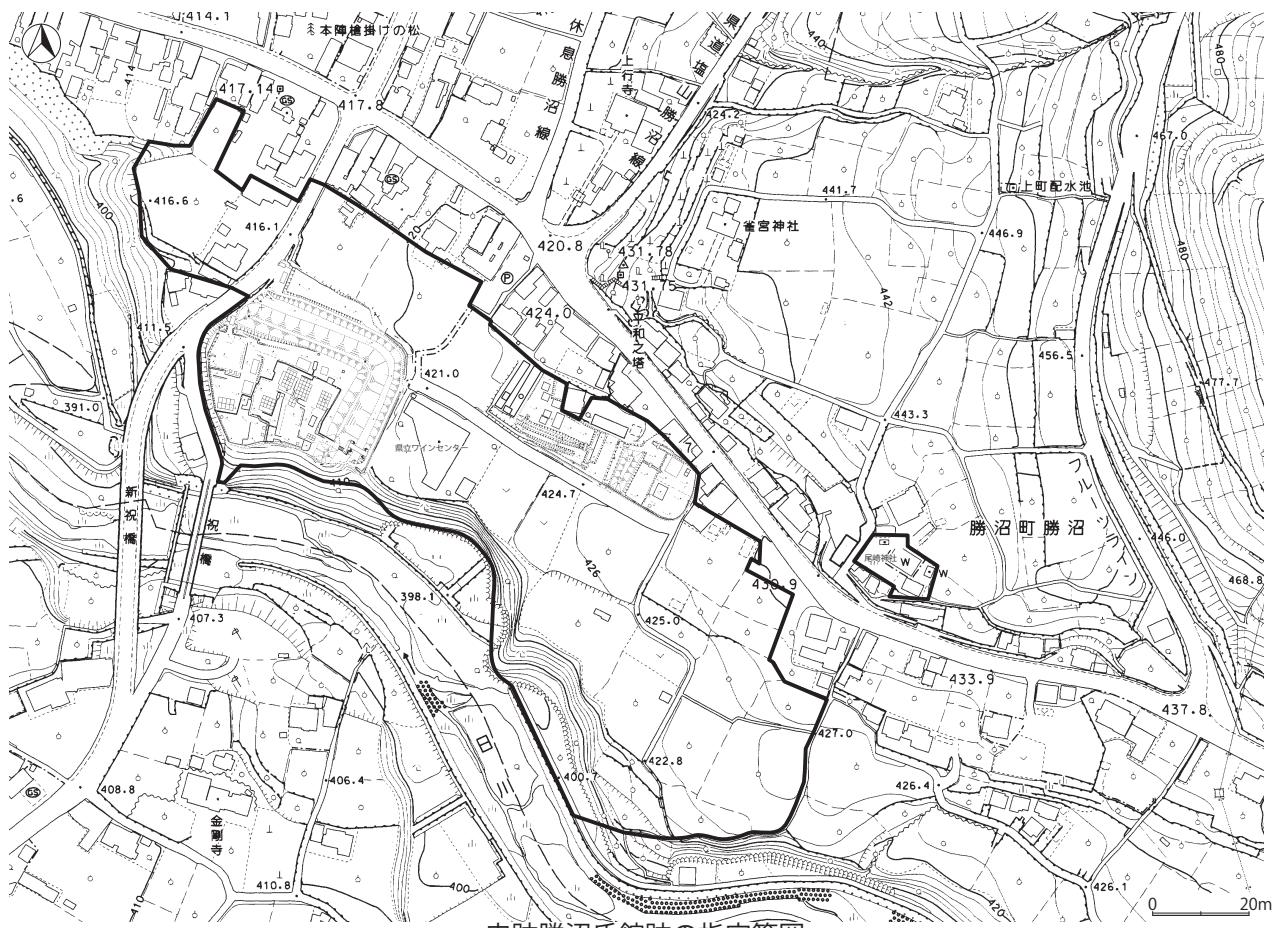
総括

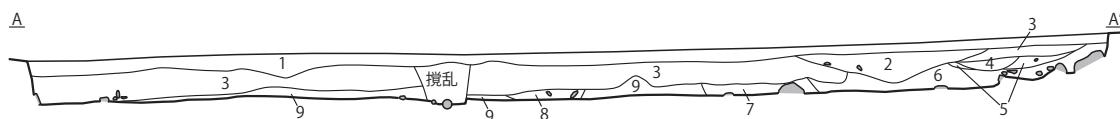
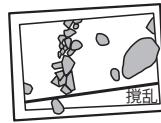
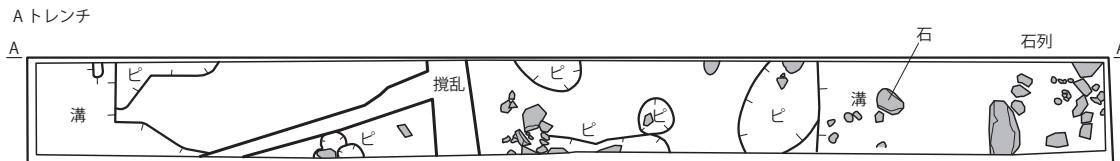
以上、調査を行った各トレンチの遺構・遺物の検出状況について、概観した。遺構の分布に粗密がみられるが、概ね、全体にわたって遺跡が展開していることが再確認できた。今回の調査では建物遺構の把握には至らなかったが、土塁、溝、土坑などの遺構の他にも埋没谷などのように、地形が大きく改変された痕跡も

確認することができた。今回確認された遺構の詳細や、無遺構部分がどのような意味を持つかについては今後の調査によって明らかにすべき課題といえる。

出土遺物については小片がほとんどであるが、土師質土器（かわらけ）など器形が明らかなものも出土している。14点を図示した。1から6はCトレンチの谷から出土したもので、1は土師器坏、2から6は土師質土器（かわらけ）である。7はDトレンチ出土、8・9はF2トレンチ出土、10はGトレンチ出土、11はMトレンチ出土で、いずれも土師質土器。2、5、6、9は煤の付着を確認でき、灯明皿として使用されたと考えられる。12はK2トレンチ出土、青磁碗の口縁部破片。13はM2トレンチ出土、染付碗の底部破片。14はCトレンチ出土、板状の銅製品で菱形の透孔が三か所ある。

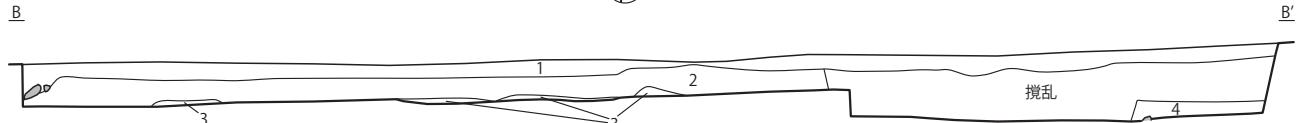
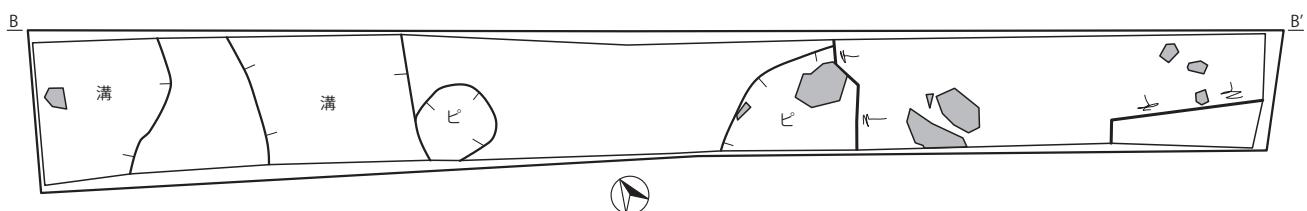
勝沼氏館跡





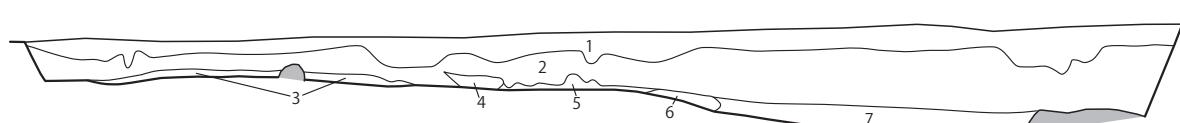
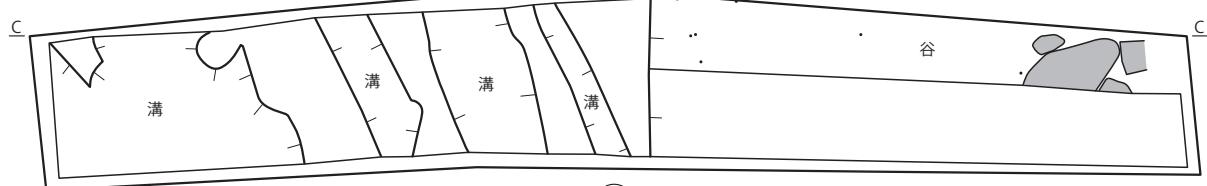
- A トレンチ
 1. 暗褐色土 表土
 2. 褐灰色土 砂粒を含む
 3. 褐灰色土 砂粒を少量含む、炭化物微量含む
 4. 暗灰色土 灰を多く含む
 5. 暗褐色土 小礫、砂粒微量含む
 6. 黒褐色土 風化礫や礫を多く含む、遺構か
 7. 灰黄褐色砂質土 矶を少量含む、砂粒含む、脆弱
 8. 暗褐色土 矶を少量含む、遺構か
 9. 黄灰褐色土 風化礫を微量含む、地山

B トレンチ



- B トレンチ
 1. 暗褐色土 表土
 2. 暗褐色土 耕作土
 3. 黄褐色土 地山
 4. 暗黄褐色砂 矶含む、地山

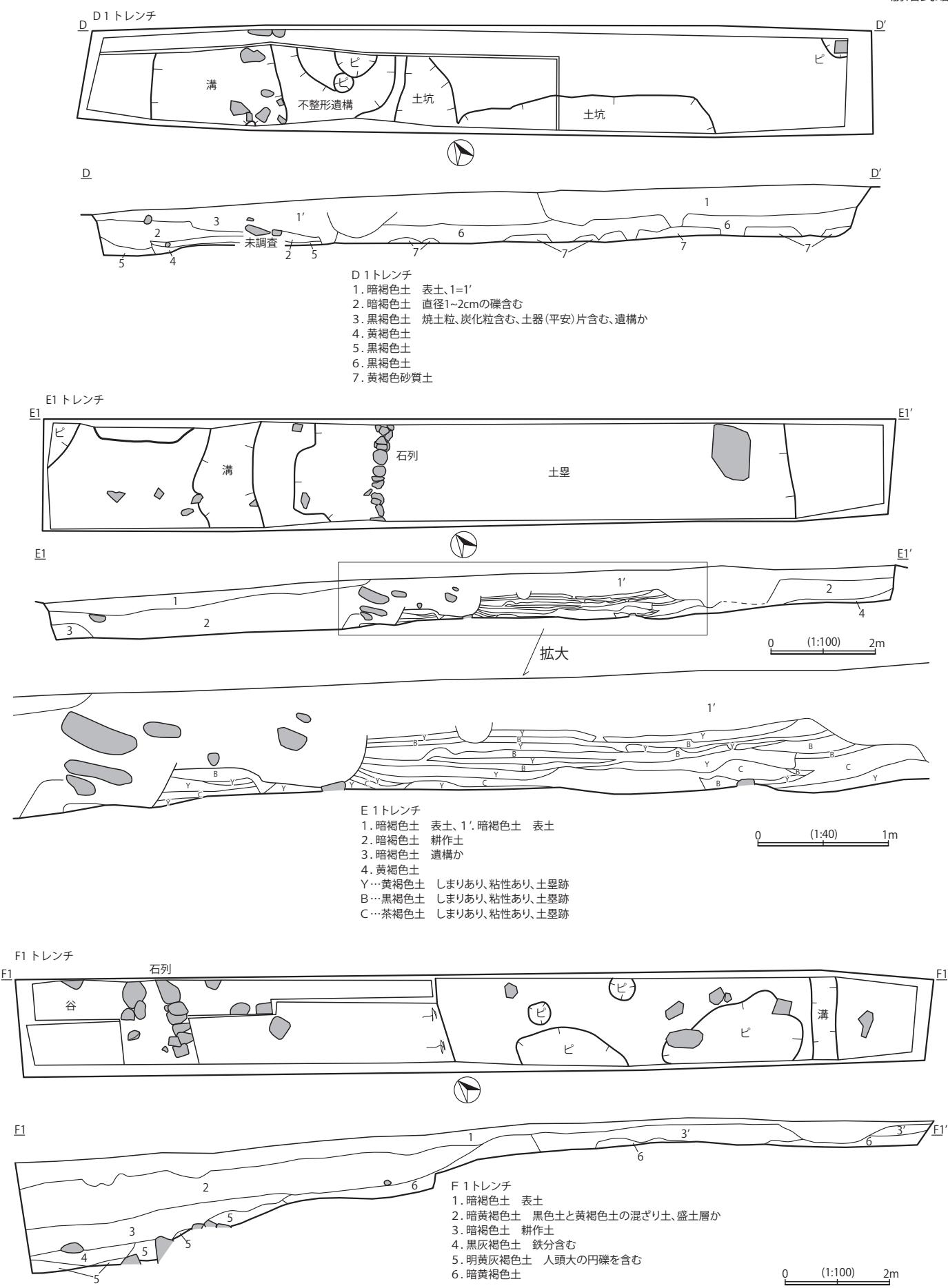
C トレンチ



- C トレンチ
 1. 暗褐色土 表土
 2. 暗褐色土
 3. 黑褐色土
 4. 暗黄褐色砂
 5. 黄褐色砂
 6. 黄褐色砂質土
 7. 暗茶褐色土

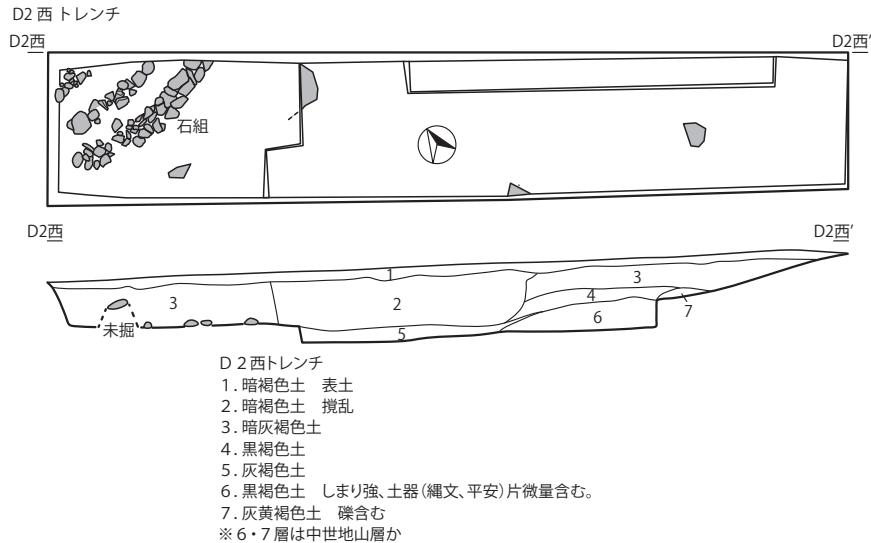
0 (1:100) 2m

A・B・C トレンチ平断面図



D1・E1・F1 トレンチ断面図

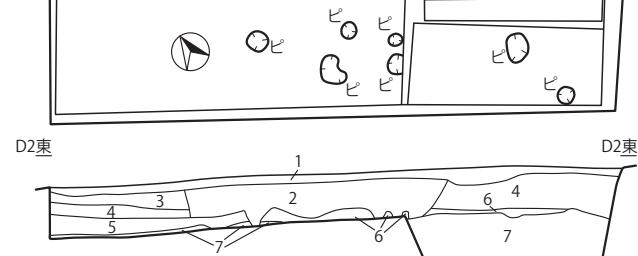
勝沼氏館跡



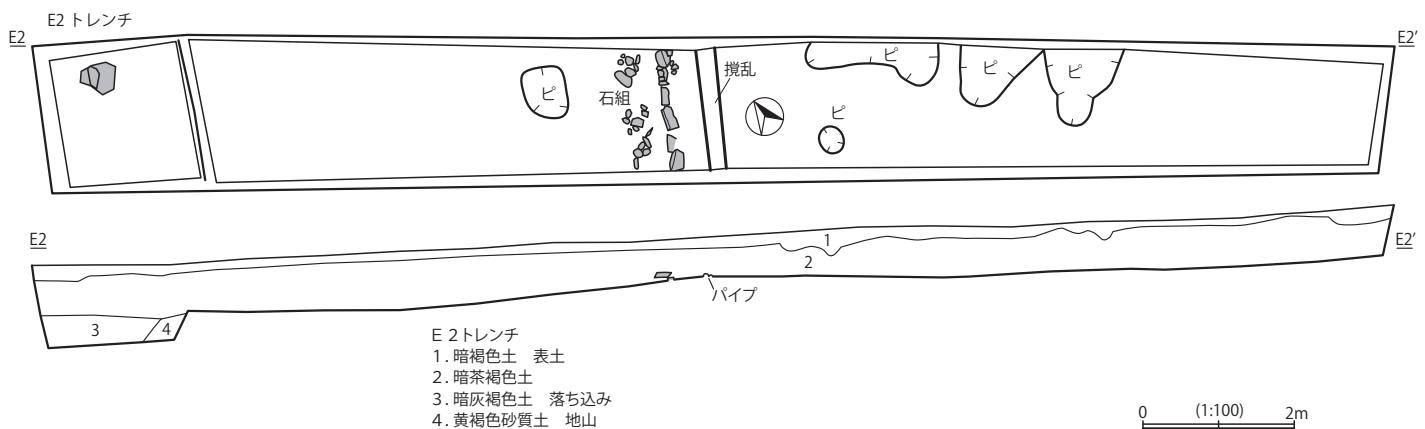
D2 東 トレンチ

D2 東

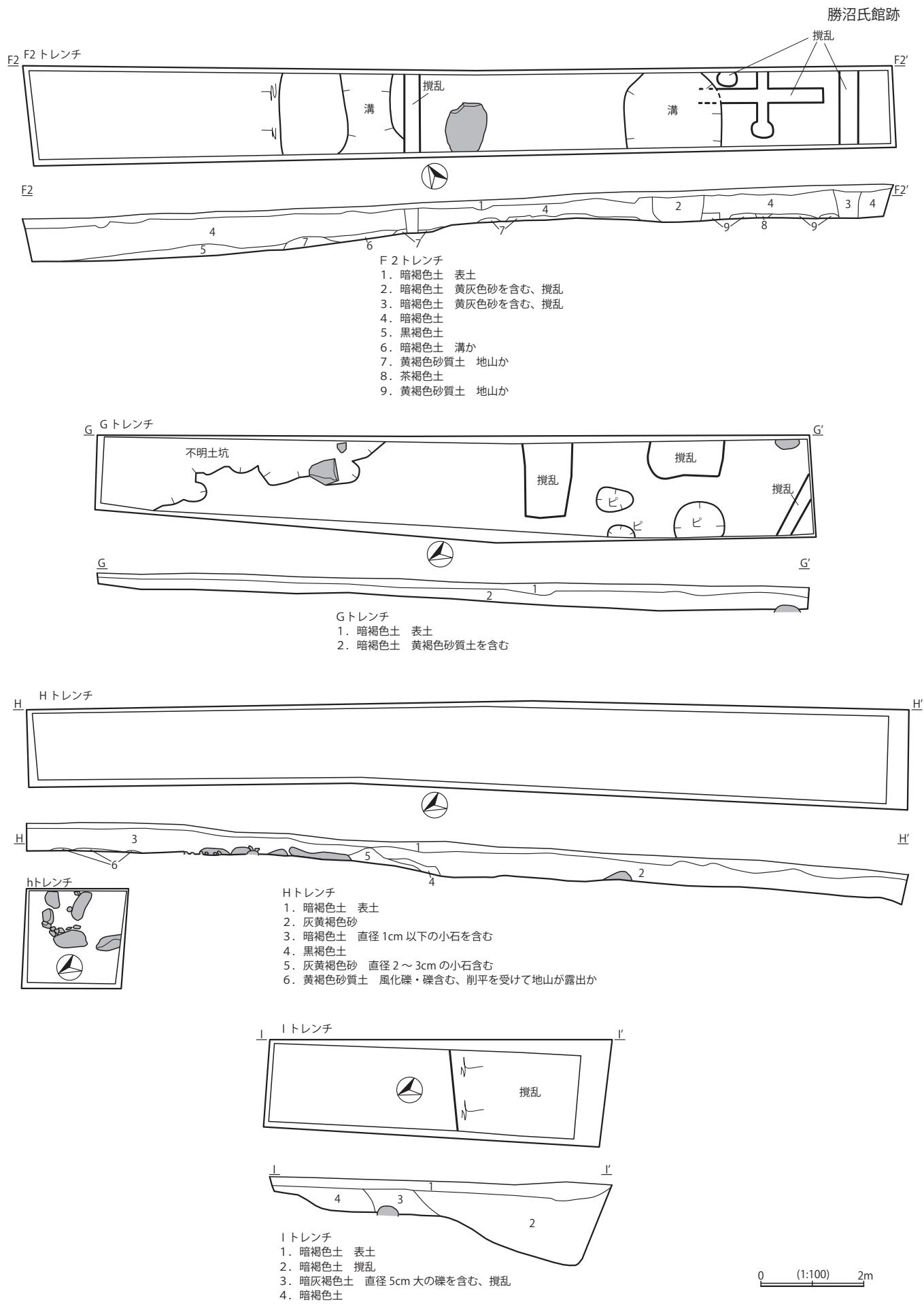
D2 東'



- D2 東 トレンチ
1. 表土
 2. 搾乱
 3. 表土
 4. 暗灰褐色土
 5. 黒褐色土
 6. 黄褐色砂質土
 7. 黒褐色土 しまり強、土器(縄文、平安)片微量含む。

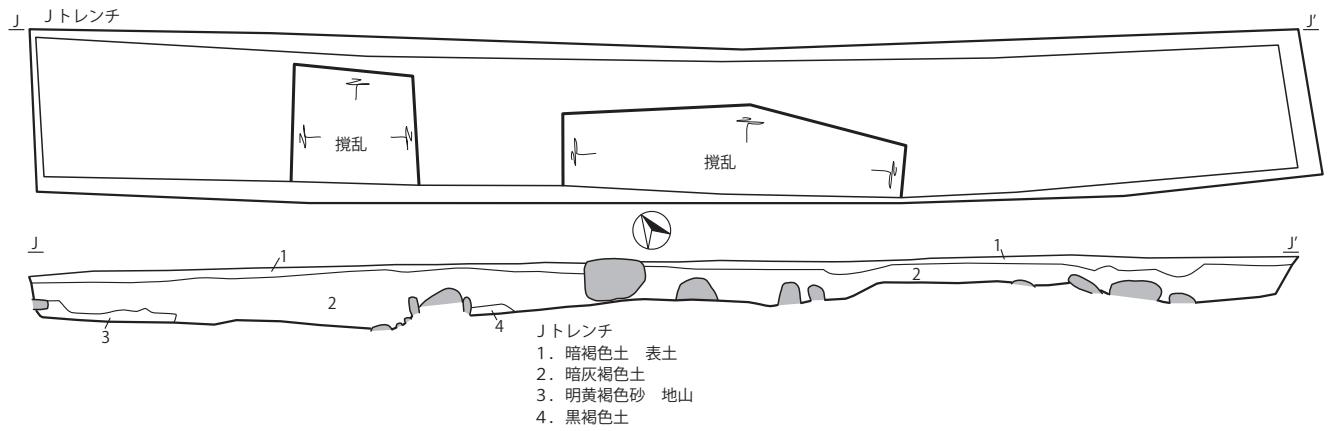


D 2 ・ E 2 トレンチ平断面図

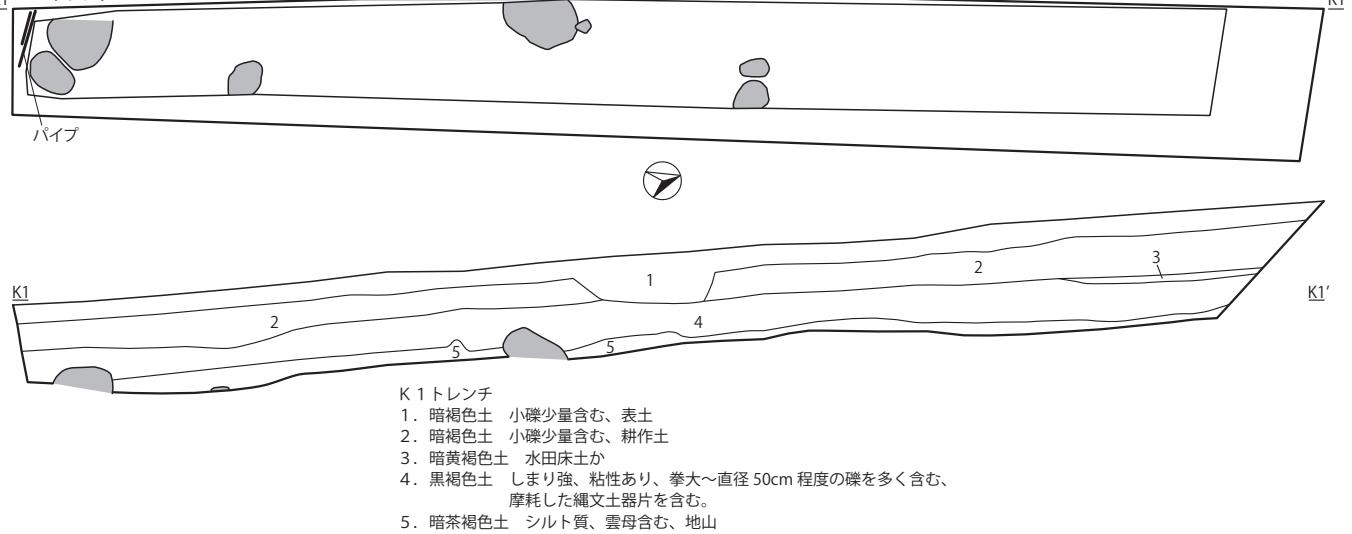


F 2・G・H・I トレンチ断面図

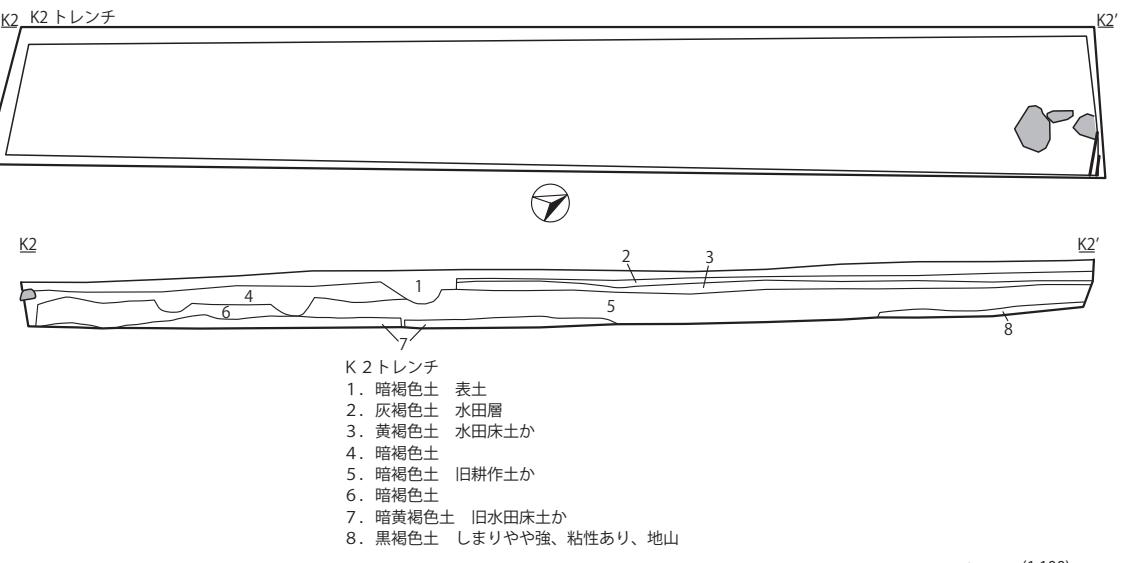
勝沼氏館跡



K1 K1 トレンチ



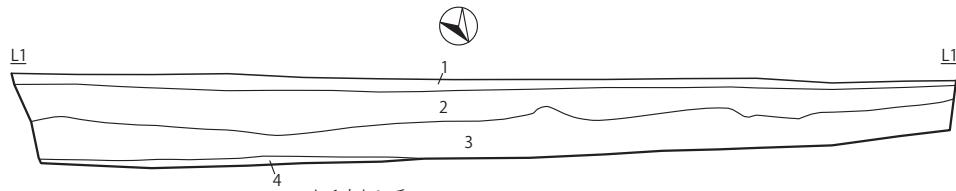
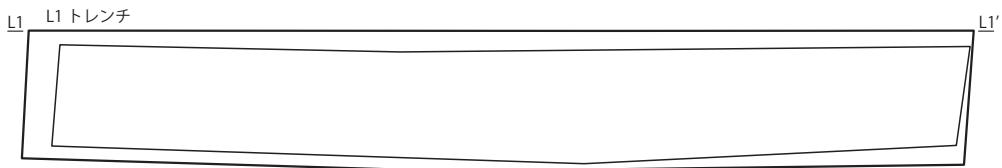
K2 K2 トレンチ



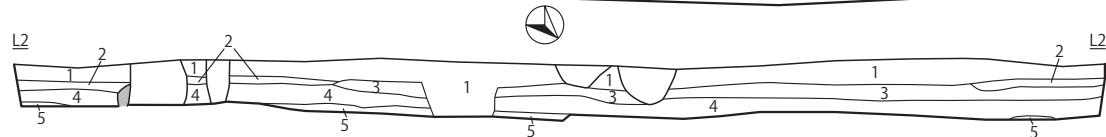
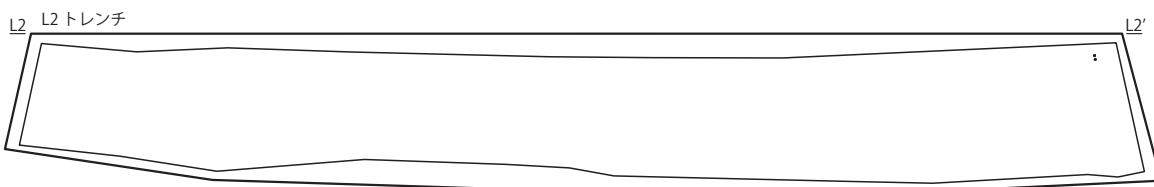
0 (1:100) 2m

J・K1・K2 トレンチ平断面図

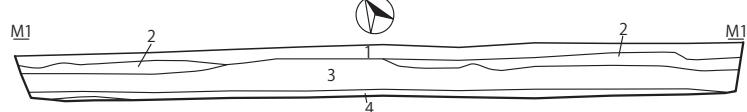
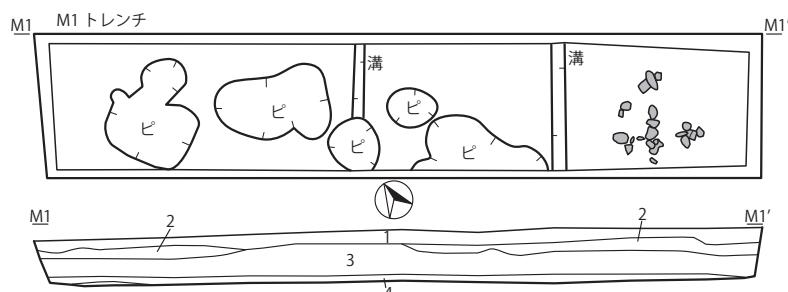
勝沼氏館跡



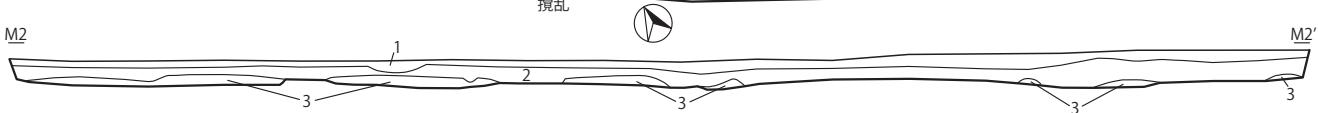
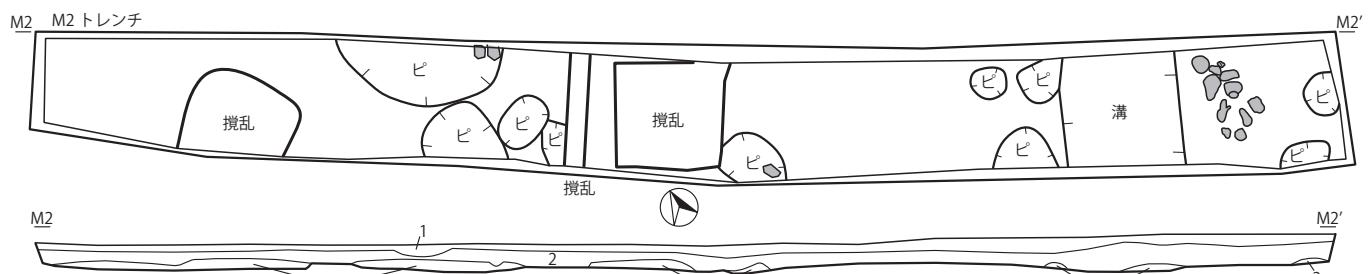
- L 1 レンチ
 1. 暗褐色土 表土
 2. 暗褐色土 耕作土
 3. 暗灰褐色土
 4. 黒褐色土 しまり強、縄文土器片を含む。



- L 2 レンチ
 1. 暗褐色土 表土
 2. 暗黄褐色土 水田床土か
 3. 黒褐色土 直径 1 ~ 5cm の礫を少量含む
 4. 暗褐色土 直径 1 ~ 5cm の礫を微量含む
 5. 黒褐色土 しまり強、地山。



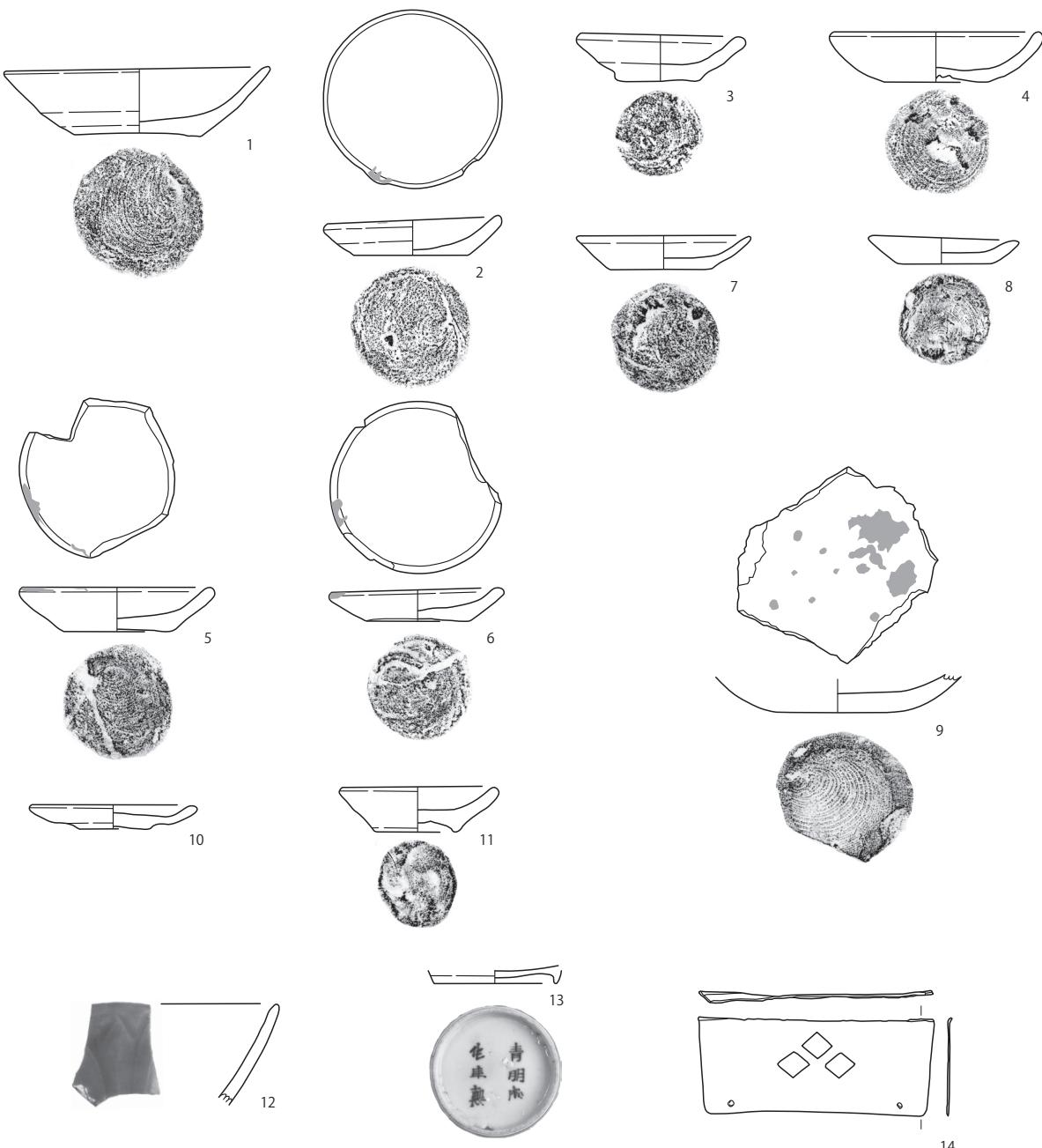
- M 1 レンチ
 1. 暗褐色土 表土
 2. 黄褐色土 水田床土か
 3. 暗褐色土 耕作土、直径 1 ~ 5cm、小石含む
 4. 暗灰褐色土



- M 2 レンチ
 1. 暗褐色土 表土
 2. 暗褐色土 耕作土
 3. 黄褐色土 地山

0 (1:100) 2m

L 1 · L 2 · M 1 · M 2 レンチ平面図



0 (1:3) 10cm

出土遺物



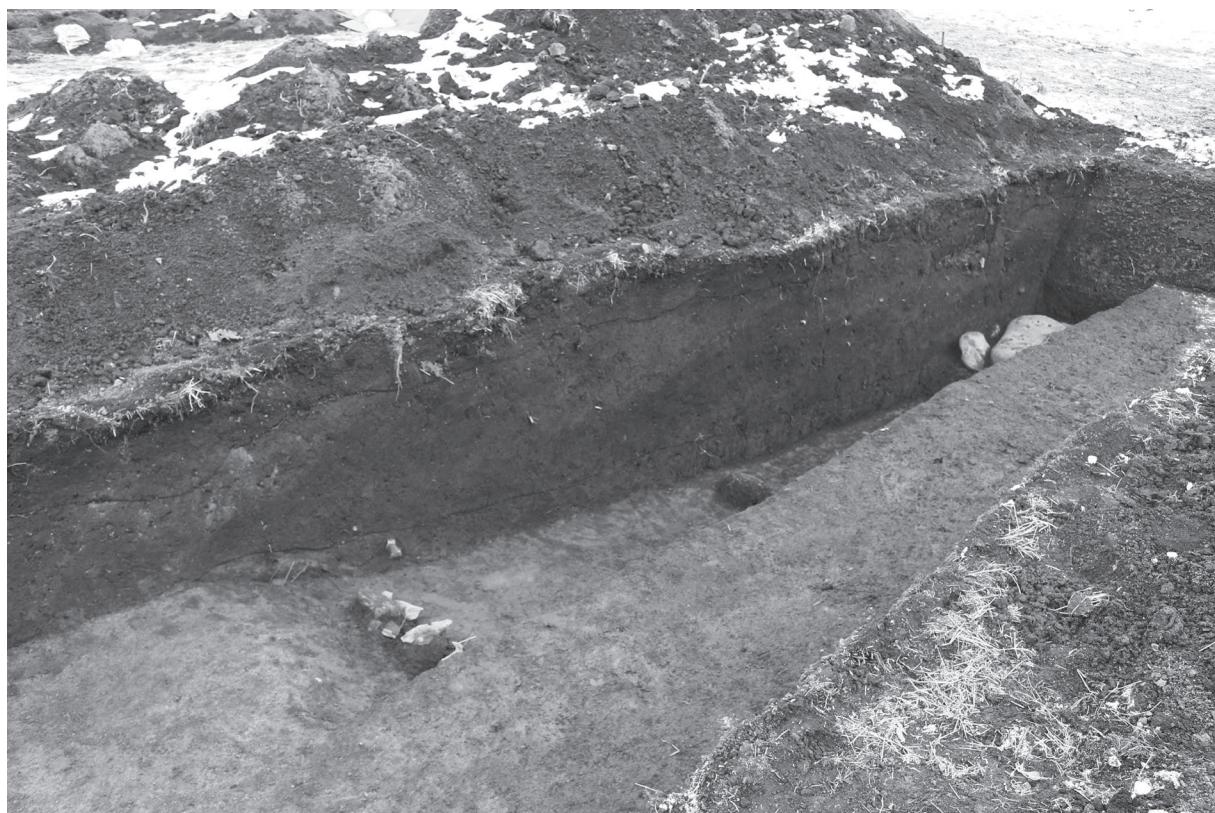
Aトレンチ土層断面（西から）



Aトレンチ東端部石列確認状況（東から）



B トレンチ土層断面（西から）



C トレンチ東端部谷土層断面（西から）



C トレンチ谷確認状況（東から）



C トレンチ谷内遺物出土状況



D 1 トレンチ土層断面（西から）



D 2 トレンチ西端石組遺構確認状況（東から）



D 2 東トレンチ土層断面（南から）



E 1 トレンチ土層断面（西から）



E 1 トレンチ土層断面



E 2 トレンチ土層断面（西から）



E 2 トレンチ石組遺構確認状況（南西から）



F 1 トレンチ土層断面（西から）



F 1 トレンチ谷（南西から）



F 1 トレンチ谷部石列（西から）



F 2 トレンチ遺構確認状況（西から）



G トレンチ遺構確認状況（北から）



F 2 トレンチ土層断面（西から）



G トレンチ土層断面（南西から）



H トレンチ遺構確認状況（南から）



Hトレンチ土層断面（南西から）



hトレンチ遺構確認状況（南から）



トレンチ土層断面（北西から）



トレンチ土層断面（西から）



K 1 トレンチ遺構確認状況（南から）



K 1 トレンチ土層断面（北東から）



K 2 トレンチ土層断面（北東から）



L 1 トレンチ土層断面（東から）



L 1 トレンチ遺構確認状況（南東から）



L 2 トレンチ土層断面（北から）



M 1 トレンチ土層断面（西から）



M 1 トレンチ（南東から）



M2 トレンチ土層断面（西から）



M2 トレンチ遺構確認状況（南東から）



1



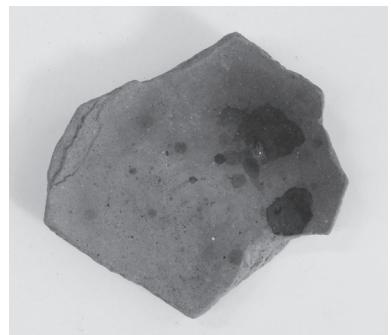
2 ~ 6



7



8



9



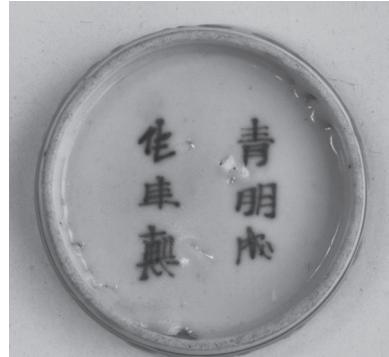
10



11



12



13



14

報 告 書 抄 錄

| | |
|--------|---|
| ふりがな | しないいせきはっくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ |
| 書名 | 平成 29 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書 |
| シリーズ名 | 甲州市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第 29 集 |
| 編著者名 | 入江俊行 |
| 編集機関 | 甲州市教育委員会 |
| 所在地 | 〒 404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5076 |
| 発行年月日 | 平成 31 年 3 月 29 日 |

| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | | 世界測地系 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---------------------|--|-------|------|-------------|--------------|---|-----------------------|--------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | | | |
| ひがしたいせき 東田遺跡 | こうしゅうしえんざんかわだ 甲州市塩山西広門田 あざひがした 字東田 89-1,90 | 19213 | 塩 7 | 35° 41' 20" | 138° 43' 21" | 平成 29 年 10月 26 日～ 31 日 | 約 63m ² | 店舗建設 |
| はていた 旗板 1810-4 他 | こうしゅうしえんざんかみおぞ 甲州市塩山上於曾 あざはていた 字旗板 1810-4 他 | 19213 | なし | 35° 42' 17" | 138° 43' 59" | 平成 29 年 12月 4 日～ 13 日 | 約 28.5m ² | 宿泊施設建設 |
| かつぬましかたあと 勝沼氏館跡 | こうしゅうしかづぬまちょうかつぬま 甲州市勝沼町勝沼 あざごしよ 字御所 2517-2 他 | 19213 | 勝 40 | 35° 39' 32" | 138° 44' 00" | 平成 29 年 12月 11 日～ 平成 30 年 3 月 30 日 | 約 529.5m ² | 史跡整備 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-------------|------|------|-----------------------|--|------|
| 東田遺跡 | 集落 | 古墳 | 溝、土坑 | 土師器 | |
| 旗板 1810-4 他 | 包蔵地外 | — | なし | なし | |
| 勝沼氏館跡 | 城館 | 中世 | 溝、土坑、石組遺構、 土塁跡、埋没谷 | 縄文土器、土師器、土師質土器、 瓦質土器、陶器、磁器、石器 など | |

山梨県甲州市
平成 29 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
2019
発行 甲州市教育委員会
住所 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1
電話 0553-32-5076
発行日 平成 31 年 3 月 29 日
印刷 株式会社 峠南堂印刷所